

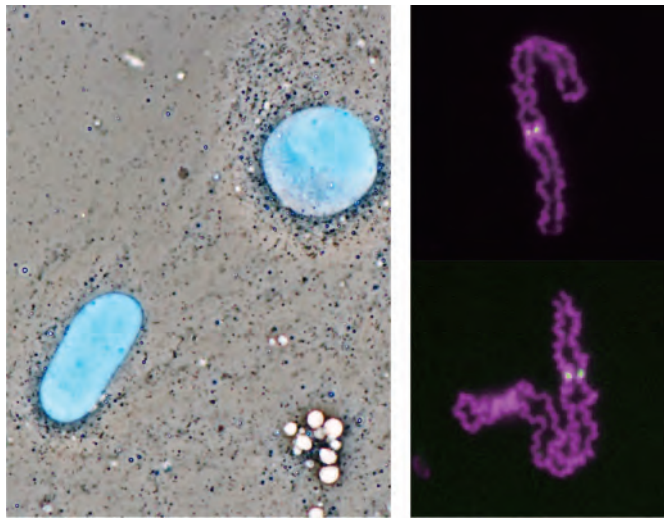
第16回 九州大学 理学部生物学科 公開講座

九州大学理学部生物学科では、高校生や市民のみなさんを対象にして、生物科学の現状をわかりやすく紹介します。ふるってご参加ください。

遺伝情報をまもり、伝える仕組み

高橋 達郎 (染色体機能学研究室・准教授)

子が親に似るのは親の遺伝情報を子が受け継ぐから。これは一般常識としてよく知られています。遺伝情報が傷つくと、がんなどの病気の原因になることもよく知られています。では遺伝情報はどのようにして守られ、どのようにして次の世代につたえられているのでしょうか。遺伝情報はDNAに記録されています。遺伝情報をまもり、つたえる仕組みとはつまり、化学物質としてのDNAを、まもり、コピーし、つたえる仕組みということです。本講座では、今まさに解明されつつあるこの神秘的な仕組みのあらましを、私たちの最新の研究をまじえながらお話しします。



(左) 試験管の中でDNAが複製している様子。青く光って見えるのがDNA。
(右) 試験管の中で作らせた染色体。

花の性から広がる多様な世界

矢原 徹一 (生態科学研究室・教授)

花にはおしべとめしべがあり、昆虫などによって花粉が運ばれることによって、種子が実ります。しかし中には、セイヨウタンポポやフジバカマのように、無性生殖によって種子が実る場合もあります。無性生殖には一個体でも繁殖できるというメリットがあります。では、多くの生物がオスとメスという性を持ち、有性生殖を行うのはなぜでしょうか。一方で、有性生殖をおこなう花は、多種多様な形・色・匂いを持っています。このような花の多様性は、どのようにして進化したのでしょうか。花の性に注目しながら、植物がいかに巧みに生きているかについて紹介します。



(左) ハマカンゾウの花。早朝に開花し夕方に閉じる。花には匂いが無い。赤い花を好むアゲハチョウ類が花粉を運ぶ。
(右) キスゲの花。夕方に開花し、早朝に閉じる。甘い匂いを出す。夜間にスズメガ類が花粉を運ぶ。

日時: 2017年8月12日(土) 13:30~16:00 (講演会)
場所: 九州大学伊都キャンパス センター2号館・4階 2403号室

- ・JR筑肥線・昭和バス利用: 九大学研都市駅(地下鉄に接続)から九大学行きバスに乗り、ビッグオレンジ前のバス停で下車してすぐ。
- ・西鉄バス利用: 博多駅、天神バスセンターから伊都キャンパス行きバスに乗り、ビッグオレンジ前で下車。

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/ito/>

対象: 高校生および市民
定員: 約300名 参加費: 無料 参加申し込み: 不要
主催: 九州大学大学院理学研究院・生物科学部門
連絡先: 仁田坂英二(092-802-4327) 中條信成(092-802-4269)

